



(1) 修学資金貸与制度

入学から卒業までの合計6年間、入学者全員に学生納付金相当額及び入学時学業準備費を貸与するもので、実質的に入学金や授業料が不要になるシステム。大学を卒業後直ちに、本人の第1次試験の試験地に属する都道府県知事の意見を聴き指定する公立病院等に医師として9年間勤務することで返還が免除される。

(2) フリーコース・スチューデントドクター制度 (FCSD)

5年次終了時において、すでに医師国家試験合格レベルの知識を有し、かつ志の高い優秀な学生に与えられる自由な研修・研鑽制度。6年次の4月から11月までの半年間、自主的に研修や実習プログラムを作成し、学内教員の指導のもとで受講する。研修先は国内のみならず海外の病院でも可能で、実際にアフリカへ行った学生もいる。当制度に選ばれた学生は、授業の出席、卒業試験が免除される上、研修に係る資金については大学の補助が出る。

(3) 医師国家試験合格率

自治医科大学の医師国家試験合格は、2024年度実施試験では全国1位の100%。直近の12年間で全国1位を11回達成している。第1期卒業生が受験した1978年から2024年までで全国トップ合格率が22回という記録を誇る。

(4) 遺伝子治療と『奇跡の子どもたち』

『奇跡の子どもたち』はAADC欠損症という神経希少難病の子どもたちが、自治医科大学が開発した新たな遺伝子治療法により回復するまでを追ったドキュメンタリー映画。科学技術映画祭で最高賞の内閣総理大臣賞を受賞。

(5) 入学試験

入試選抜は都道府県単位で行われるため、出願地となる都道府県を1か所選択し出願書類を提出する。この出願地が第1次試験場所となり、また修学資金貸与制度により卒業後一定期間勤務する場所となる。第1次試験は、マークシート式の学力試験と面接試験。これに合格した者が自治医大での第2次試験に臨む。内容は、記述式学力試験と面接試験で、面接は都道府県単位で集団面接と個人面接が実施される。第1次試験、第2次試験および提出された調査書などの必要書類により総合判断すると共に、建学の趣旨を理解し、地域医療に進んで取り組む気概のある者を各都道府県から若干名ずつ選抜する。



医学部学生寮



自治医科大学医学部には数多くの研究施設があり、幅広い研究が展開されています。教員・教授群も40以上の大学出身者で構成され、実にダイバーシティ豊かな過去5年間の科研費の新規採択率も平均39・4%と研究力の高さが窺えます。

「注目すべき研究はたくさんあります。本学は遺伝子治療のメックで、映画『奇跡の子どもたち』^④で有名になりました」と永井学長。

自治医科大学医学部では、自治医大ならではの全国小さなコホート(同じ特性をもつ集団)を集め、川崎病などの疫学調査や地域に根ざした研究を行っています。国や自治体と連携した医療政策研究も得意としています。

「現役の高校生だけでなく、別の領域に進んだが医学に方向転換したい人なども歓迎します」(永井学長)

「自治医科大学の卒業生の中には、5つも6つも専門医資格を持っている人もいます。欧米と異なり、日本の医療提供体制の中では、むしろ何らかの専門を持ちつつ、患者さんを

総合的に診る技術、能力、マインドセットをもった医師が求められています」と永井学長は総合医の重要性を強調します。

通称「ビッグセンター」と呼ばれる先端医療技術開発センターは、我が国有数の大型動物実験施設です。プタを用いた異種移植による再生医療研究も積極的に進められています。

「臨床医学には哲学があります。私も医学史や統計の歴史、医療機器の物理学など、1年生に年4回ほど講義をします。医療制度や医療政策、地域の問題に関心をもってもらうこ

「人間、社会、自然のあらゆるものごとくに好奇心をもつこと。そして考え自分の言葉で表現することができるように、『読む・書く・話す・考える』を鍛えてほしい。医師は人間が好きでないといけません。競争社会で勉強する中でも、人に共感する能力を自ら育ててください」



ながい ながい 永井良三学長
1974年東京大学医学部卒業、医学博士。専門は循環器病学。1999年東京大学大学院医学系研究科内科学専攻循環器内科教授。2009年東京大学医学部附属病院病院長。12年より現職。同年東京大学名誉教授に就任。19年より宮内庁皇室医務主管、日本医師会医学賞、紫綬褒章はか受賞歴多数。

自治医科大学医学部では、経済的事情により学びの機会が失われることのないよう、入学金・授業料が実質不要になる制度を実施し、広く門戸を開いています。それが「修学資金貸与制度^①」で、卒業後へき地を含む都道府県の公立病院等に9年間勤務することで返還が免除されます。

「臨床医学には哲学があります。私も医学史や統計の歴史、医療機器の物理学など、1年生に年4回ほど講義をします。医療制度や医療政策、地域の問題に関心をもってもらうこ

「他大学の地域枠と違うのは、へき地勤務があることだと思います。山間地や離島など、無医地区などの医療を担う志をもった人、滅私奉公ではなく、自分を活かし公共に貢献する、活私開公^②ができる人、地域に根ざしてグローバルに考えるグローバルな人を育てたいと思っています」と、永井良三学長は自治医科大学の目指す医師像を語ります。

「学生を都道府県からお預かりして公務員として返すわけですから、回り道することなく早く医師にしたいといけません。優秀な者には能力を自由に伸ばしてもらい、学力が十分でない者には個人指導や課外授業を行うなど、非常に熱心に教育をしています」(永井学長)

自治医科大学は、医療に恵まれないへき地等における医療の確保及び向上と、地域住民の福祉の増進を図るため、1972年に全国の都道府県が共同して設立した私立大学です。「医療の谷間に灯をともし」をミッション(使命)に掲げ、開学以来、5000人近い卒業生が、地域医療、保健、福祉に多大な貢献をしてきました。

医師国家試験合格率は常にトップクラスで、高い水準まで学生を引き上げるための丁寧な教育と、臨床に長けた総合医を育成するカリキュラムには定評があります。

卒業後、出身都道府県の公立病院等で勤務をすることを条件に、入学金・授業料が実質不要になる独自の制度があります。また、医学部生全員が寮生活を送り、医師に必須なコミュニケーション能力や協調性を培います。

自治医科大学

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1 学事課入試広報係 TEL 0285-58-7045 <https://www.jichi.ac.jp/>

「医療の谷間に灯をともし」を使命に、グローバルな医師を全国に輩出。臨床重視の手厚い教育を実践

「他大学の地域枠と違うのは、へき地勤務があることだと思います。山間地や離島など、無医地区などの医療を担う志をもった人、滅私奉公ではなく、自分を活かし公共に貢献する、活私開公^②ができる人、地域に根ざしてグローバルに考えるグローバルな人を育てたいと思っています」と、永井良三学長は自治医科大学の目指す医師像を語ります。

「臨床医学には哲学があります。私も医学史や統計の歴史、医療機器の物理学など、1年生に年4回ほど講義をします。医療制度や医療政策、地域の問題に関心をもってもらうこ



手術室